

友松会だより

平成 29 年度 新春のつどい 報告号

発行責任者 会長 芦川 弘

平成 30 年 2 月 5 日 発行

新春のつどい

平成 30 年 1 月 27 日(土)

会場 ローズホテル横浜

= 新春のつどい = 次第

- 1 開会のことば
- 2 新年のあいさつ
- 3 お祝いのことば
- 4 ご来賓紹介
- 5 斉唱
- 6 鏡開き
- 7 乾杯

《 懇親会 》

- *ご来賓ご挨拶
- *若手会員・学生会員紹介
 激励のことば
- *30年3月退職予定者紹介
- *支部(支部会員)紹介、個人会員紹介
- *おとしだま抽選会
- *友松会創立130周年記念総会の案内
- *師範学校校歌、学生歌「みはるかす」
- *万歳三唱
- *閉会のことば

新年のあいさつ(芦川会長) (要旨)

新年あけましておめでとうございます。本日は、友松会主催「新春のつどい」にご来賓として学長様をはじめ同窓会、校友会等の多くの方々のご臨席を賜り、会員150余名の出席により開催できますことに、お礼申し上げます。

新春にあたり、今年特筆すべきことは、友松会が創設130年を迎えることです。明治21年、神奈川師範学校の40数名の卒業生が校庭の大松の下で、神奈川県教育界の充実・発展を誓い、誕生したと言われていいます。先輩たちが営々と築いてきた歴史と伝統を大



芦川会長挨拶

切にし、一段と豊かに、かつ輝きを増した存在として、次代へつなげていかなければならないと決意を新たにしております。

さらに、今年は教育学部改編になって2回目の学生会員を迎えます。友松会員として教育界における有能な人材として活躍することを期待しています。

昨年は、本部及び支部事業にご理解ご協力いただきありがとうございました。本年もよろしく願い申し上げます。昨年6月、湘南地区茅ヶ崎市を会場に200名を超える会員の出席をいただき、総会を盛大に開催できました。10月には、大学主催「横国 Day」に1000名を超す方々に参加いただき、友松会では大学と連携して、「豊かな教育を考える会」を実施し、松沢研究奨励賞受賞者の研究発表をもとに研究協議と意見交換をしました。

本年は、友松会創設130周年を機に友松会の役割を再認識し、新たな歩みを始める決意です。「深まろう 高まろう つながる会員 つながる大学」のスローガンのもと、「さらなる友松会基盤強化と充実・活性化を図る」ために、本部・支部活動への積極的な参加と会員同士の絆を深めること、同窓会の役割として大学との連携強化と貢献に積極的にかかわることをねらいに活動したいと思います。「友松会の充実と発展」のためには、組織力の強化が大切であり、寄付事業への協力、支部総会・同期会のさらなる重点化を図り、組織のすそ野の基盤強化に取り組みます。

私たちは、友松会の伝統を誇りとしつつ、教育学部

の同窓会として、新たな役割を担う組織に脱皮する使命を果たすべく、多様な分野の卒業生を受け入れる同窓会となることが課題となります。

130周年記念式総会への参加をお願いし、皆様のご健康とご多幸を祈念し、本日ご出席の皆様へ感謝申し上げます。

お祝いのことば ご来賓代表

横浜国立大学教育学部長・友松会名誉会長杉山久仁子様、名教自然会会長井上誠一様より来賓代表祝辞をいただきました。「友松会の先生方には、多くの学生が教員になるための面接対策講座や、模擬授業講座等



杉山教育学部長

で協力いただいている。」「厳しい風が吹いているが、質の高い教員養成と教員就職率を高めるため、大学の果たす役割を考え、結果を出していきたい。」「同窓会難民を出さず、智恵を絞って新しい体制に対応する運営を実行していく。」「本学工学部卒の藤嶋昭先生が文化勲章を受章され、大学としても同窓会としても誇らしい。」等、友松会創立130周年へ向けての期待や課題を話されました。



名教自然会(工学部) 井上会長

< 懇親会 >

ご来賓の横浜国立大学学長長谷部勇一様、参議院議員那谷屋正義様のご挨拶。支部紹介に、個人会員も登壇。お年玉抽選会は、学長賞(長谷部学長筆ラベルの酒「横浜国大」)はじめ国大グッズ賞品で盛り上がり、歓談後、130周年記念総会案内、恒例の校歌、学生歌の合唱、万歳三唱で閉会。新春にふさわしい楽しい会となりました。



鏡開き



中地区・支部紹介



お年玉・学長賞



個人会員紹介



校歌・学生歌 斉唱